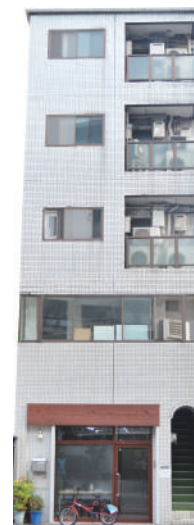


Challenge
Document
2018

誰もが何度でも、
やり直せる社会はつくれる。

**Homedoor**
ホームレス状態を生み出さない日本に



 **Homedoor**

ホームレス状態を生み出さない日本に

認定NPO法人 Homedoor
Challenge Document 2018
(2018年度年次報告書)

〒531-0074 大阪市北区本庄東1-9-14

Tel. 06-6147-7018

info@homedoor.org

[公式サイト] www.homedoor.org

[Facebook] NPO法人Homedoor

[twitter] @Homudokun

団体名「Homedoor」の由来

駅にある転落防止柵「ホームドア」になぞらえて、人生のセーフティネットから零れ落ちないように。

仕事を失ったとしても、家族や友人との関係が断たれてしまったとしても、ホームレスになったとしても。

誰もが居心地良く「ただいま」「おかえり」と言えるように。そんな願いを込めて、2010年にHomedoorという名前をつけました。

相談に来たみなさんに聞いてみました。

Q.

生活に困った時、
何がつらかったですか？

仕事を探したいけど、履歴書に書く住所がなくて、
仕事を見つけていることができなかったんです。
家を借りようと思っても、お金がない。
負の連鎖がすべてに働いていると感じました。

20日以上食べられない時もありました。
持病の薬が入ったカバンを盗まれてしまった時は、
体がしんどかったです。

ネットカフェ代が尽きた時、身内はいないし、
誰にも相談できませんでした。
野宿以外の選択肢がなく、正直「死」も覚悟しました。



山本さん
(40代)



徳田さん
(60代)



芦田さん
(20代)

What we do 活動概要

Homedoor ではさまざまな状況にある人に対応できるよう、いくつかの選択肢を用意しています。既存の支援の枠組みにとらわれることなく、どのような支援が必要とされていて、効果的なのか、日々試行錯誤を重ねながら、支援の精度を磨いています。

毎年、改善点を見直し、現場や当事者の声を元に本当に必要なサポートを生み出していく、その挑戦を「6つのチャレンジ」と表現しています。「民間でつくる新たなセーフティネット」を構築し、行政と連携することで、将来的に全国でも導入できるモデルケースをつくることが目標です。

Homedoor が取り組む「6つのチャレンジ」



Message 代表挨拶

「ホームレス状態になりたくない」と思った人が、
そうならずに済むように。
「やり直したい」と思った時に、その意思を尊重できるように。

19 歳で Homedoor を設立して 9 年が経ちました。
念願だった宿泊施設「アンドセンター」を
2018 年度に開始でき、
ついに年間の相談者は 300 名を超えました。

女性からの相談や家族での相談も増え、
新たな課題にぶつかることもありました。
心が折れそうになることもありましたが、
当事者たちの声が私たちの支えでした。

「Homedoor があって、九死に一生を得た。」
自殺まで考えたという人が、家を借りられた時、そう言ってくれました。

より多くの人たちに私たちの活動が届くよう、
ニーズに応えられるよう、これからも一歩ずつ、一歩ずつ、
チャレンジを積み重ねていきます。

そんな私たちの「チャレンジドキュメント 2018」、ご笑覧ください。

認定NPO法人Homedoor 理事長 川口 加奈

14 歳でホームレス問題に出会い、ホームレス襲撃事件の根絶をめざし、炊出しや講演活動を開始。19 歳で Homedoor を設立。世界経済フォーラム（通称・ダボス会議）の Global Shapers や Google インパクトチャレンジグランプリ、人間力大賞グランプリ（内閣総理大臣賞）にも選出される。1991 年大阪生まれ、大阪育ち。

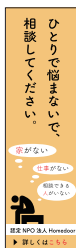


データで見る 2018 年度

ポスター掲載店舗

164 店舗

大阪市北区のコンビニやコインランドリーを中心に営業活動を行いました。ポスターは全国展開中のネットカフェチェーンにも掲載していただいており、多くの人に情報を届けることができました。



夜回りで会った人数

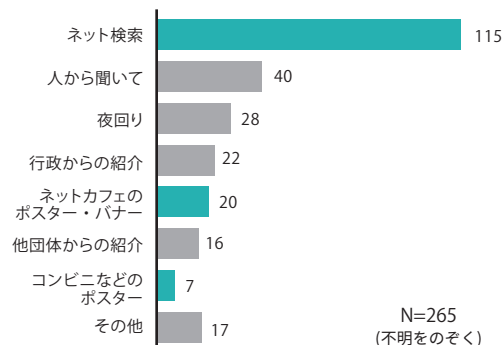
のべ
1277人

11月～2月は月2回、それ以外は月1回実施しています。毎回80名前後にお会いします。お弁当や飲み物に加え、「ホームパト通信」というメッセージカードも添えています。



Homedoorを知ったきっかけ

2018年度の相談者のうち「ネット検索」「ポスター・バナー」の数値を合計すると全体の過半数を超えました。



(上) 夜回りの様子。2013年から実施しています。4コースに分かれ、野宿をしている人のところを訪ねます。
(下左) 手作りのお弁当。ご寄付いただいたお米やフードバンクの食品を活用しています。
(下右) コンビニのイートインコーナーでポスター掲示をしていただいています。

現場のリアルボイス

「ここなら相談できるかも」と思えた。



ネット検索で来所
山本さん (40代)

ネットカフェに泊まっていたのですが、所持金が尽きてきたので、相談情報を探しておこうと調べたらHomedoorを見つけました。

すぐに連絡して、2時間歩いて事務所に行きました。僕は病気があるので個室のシェルターがあると書いてなければ、正直行かなかったと思います。暑い夏に住居や病院のサポートをしていただいて、本当に助かりました。

「こんなところまで？」と驚きました。



夜回り新コースで出会った
高島さん (50代)

夜回りでお弁当を届けてくれた時、こんなところまで支援者の人が来ることは初めてだったので驚きました。

3回の訪問があってから、Homedoorの仕事を試みようと思って事務所に行きました。今はアンドセンターに入居するようになり、「帰る場所」を得ることができました。

社会人になっても、ボランティアを続けていきたい！

イートインコーナーのあるコンビニやコインランドリーなど、ホームレスの方に見てもらえるような所にポスターを貼らせてもらう営業に力を入れました。実際に店舗を利用していた相談者の方たちのアドバイスを元にたくさんの店舗にポスターを貼ってもらうことが出来ました。

最近ではチラシを見て相談に来てくれるケースが増えているのが嬉しいです！その人にとってはまたま入ったコンビニかもしれませんが、それが大きなきっかけになったのであれば、大阪市内を自転車で爆走した甲斐があります。

Homedoorに来る皆さんと話すのが好きなので、インターンが終わっても夜回りを中心に、少しでも力になれたらと思っています。



2018年度インターン
江崎さん (20代)

関西学院大学在学中に、学校からHomedoorを紹介されインターンに。中高時代は地元・九州でホームレスの人への夜回り活動に参加！

Challenge

01

届けよう

活動内容



深夜営業店舗の
店頭ポスター



WEB 広告
バナー



昼回り
夜回り

夜回り活動開始から5年 コースを増設

厚生労働省の発表によると日本全国のホームレスの人の数は、45,555人と、前年度の調査と比べ9%の減少傾向にあります。夜回り活動「ホームパト」でも、18年度に入ってから会える人数が減ってきています。そこで、18年11月からは「西梅田」コースを増やしました。相談ボランティアがリーダーとなり、自転車での巡回を行っています。毎回4コース分、85食のお弁当を用意し、スタッフとボランティア、当事者が一緒に、大阪市内北区を回っています。この5年間で夜回り経由の相談者は合計138人となりました。

コンビニなどへの ポスター掲示に向けて

スマートフォンの普及により、フリーWi-Fiを利用した相談が17年頃から増加していました。目視しやすいホームレスの人が減る一方、インターネット経由の相談者が増えているため、18年度は新たにコンビニのイートインコーナーや商業施設などにポスターを設置してもらうよう営業活動を行いました。その結果、大阪市北区を中心に13店舗がポスター設置を快諾してくださりました。これを見た人々から新たに相談があり、コンビニなどでのポスター設置に大きな効果があることを実感しました。

15秒でわかる2018年度

課題

- ・「野宿」をしていない困窮者が増えている
- ・ホームパトで会える人数が減ってきている

壁

- ・店舗を生活の拠点とする人へのアプローチが不足
- ・巡回コースを担当できるスタッフがいない

チャレンジ

- ・コンビニなどへのポスター掲載の営業
- ・相談ボランティアが夜回りの新コースを担当

結果

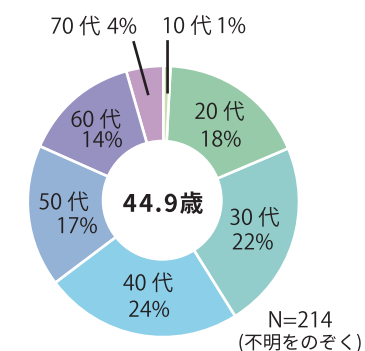
アウトリーチできる人数、エリアが増加

*1 2019年1月に実施されたホームレスの実態に関する全国調査(目視による概数調査)結果による

データで見る 2018 年度

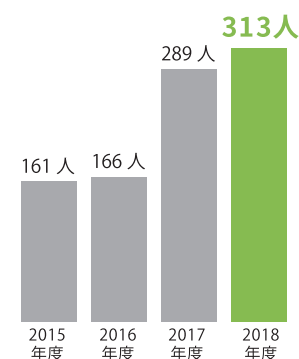
相談者の平均年齢

前年度より 0.3 歳上昇しました。最年少は 18 歳、最高齢は 88 歳と幅広い世代から相談がありました。



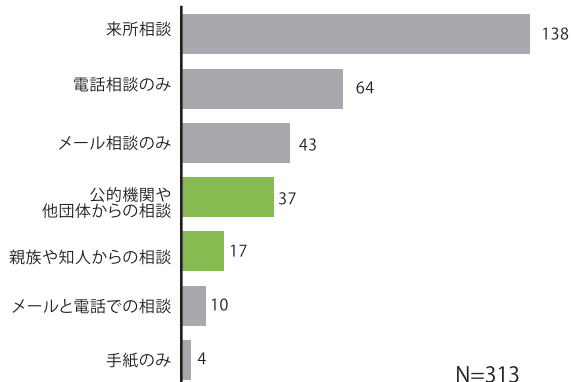
年間の相談者数

相談者は年々増加し、2018 年度は 300 名を超えました。



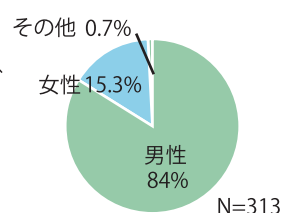
相談の経路

アンドセンターを開所したことで、相談者本人以外からの相談が大幅に増えました。



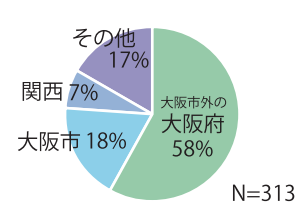
相談者の性別

個室シェルターができたこともあり、女性からの相談が増えました。自身の性に対してゆらぎのある人からの相談も数件ありました。



相談時の都道府県

ウェブサイトのリニューアルやリスティング広告の活用により、関西外からの相談も 2 割近くありました。



相談の様子。個室の相談室でこれまでの生活を聞き、それぞれの状況に合った選択肢を提示していきます。

Challenge

02

選択肢を広げる

現場のリアルボイス

「相談できる安心感」がありました。



ネット検索で来所
芦田さん（20 代）

友人の家に居候していた時、その友人が Homedoor のことを調べてくれました。その時は兵庫県にいて、交通費もなかったので、自転車ですぐに相談に行きました。

疲労困憊のなか、個室のシェルターに泊らせてもらったのはありがたかったです。いろんな提案をしてもらえ、相談できる安心感があって、相談に行って本当に良かったです。

ネットカフェでポスターを見かけて。



ポスターが
来所のきっかけ
遠藤さん（40 代）

日雇い労働で不安定な生活していた時、ポスターを見かけました。人に相談することが苦手で、少し悩みましたが、あまり先のことを考えられない生活をしていたこともあり、歩いて行ってみることに。

何も知らずに行ったので、泊めてもらえて驚きました。新品の下着なども頂けて助かりました。生活保護申請や不動産屋紹介など、色々とお手伝いいただき、今はアパートでの生活ができるようになりました。

ボランティアをしはじめたことで、本業にも好影響が。

ある勉強会で Homedoor のことを知りました。当時は大阪から離れた場所に住んでいたため、活動に参加できませんでしたが転勤で大阪の近くに引越し、少しずつ関わるようになりました。そんな中、「相談ボランティア」^{*1}という制度があることを知り、面白そうだなと思って、現在は月に数回のペースで来ています。

初回相談の対応を担当することが多く、誰でもできる簡単なボランティアというわけではないので、やりがいも非常にあります。これまでの仕事の経験を生かしながら、ホームレス支援の現場に携わることで、本業にも良い影響をもたらせるようになったと感じています。

調理師の資格も持っているため、みなさんに食事を振る舞うこともあります。「相談対応」だけでなく、幅広く Homedoor に関わっていきたいなと思っています。



相談ボランティア
鈴木さん（40 代）

児童福祉や精神障害のある人の支援業務に従事しながら、2018 年度より相談ボランティアに。作る料理が美味しいと大評判！

15 秒でわかる 2018 年度

課題

シェルターが 1 部屋しか用意できず、不足していた



壁

利用料収入で成立するモデルではないので、増設できない



チャレンジ

1000 人キャンペーンを実施し、アンドセンターを開設



結果

75 人に計 582 泊を提供できた

「調べたら一番上に出てきて、ページもしっかりしていたから、ここなら相談してもいいかなって思ったんです。」
18 年度ウェブサイトを改修したことで、そんな声が増えました。生活困窮に陥る人たちは、事前に支援団体を調べる余裕などありません。あつという間に収入がなくなり、家を失ってしまいます。「まだなんともない」と思っていたけれど、いよいよネットカフェにも泊まれなくなり、インターネットで調べるに至ります。なかには所持金がなく、何時間も歩いて相談にやってくる人もいるのが実情です。

これまで本人からの相談が大半でしたが、家族や知人が相談者を連れてくるケースや行政や他機関からの相談が非常に増えたのが印象的でした。また、相談者全体の 15% を女性が占めるようになりました。性別や家族構成に関係なく、相談に来る多くの人が「安心できる居場所」の提供の必要性を気づかされました。

ネット検索での
相談者が激増

泊まれる場所が
あるという安心感

活動内容



初回面談



シェルターの提供



他機関との連携

🏠 データで見るアンドセンター

※下記データは2018年4月から2019年3月までの宿泊者数を集計したものです。

宿泊者について

緊急宿泊用の部屋は5部屋ですが、満床になることもしばしば。やむをえない場合は、長期入居向けの部屋を一時的に利用することもありました。替えの衣服を持っていない人もおり、新品の肌着や靴なども希望者には提供しています。

75人

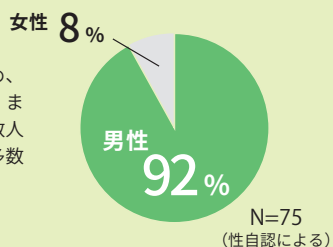
平均宿泊日数

多くの人に利用してもらうため、緊急宿泊は2週間までの利用としています。「一般就労までのつなぎ」としての利用は宿泊日数が多くなりやすいことがわかり、今後の課題のひとつと言えます。

7.7日

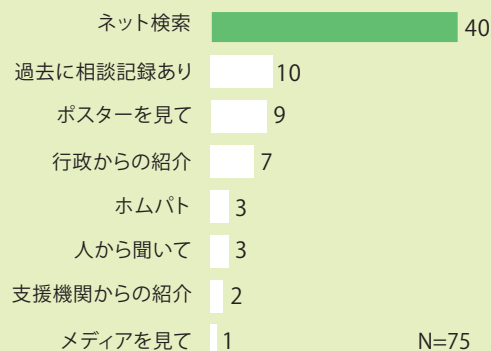
宿泊者の性別

大阪には個室型シェルターが少ないため、女性からも泊まりやすいと好評でした。また宿泊を希望する人が一人ではなく複数人のケース（親子、兄弟、夫婦など）も多数見られました。



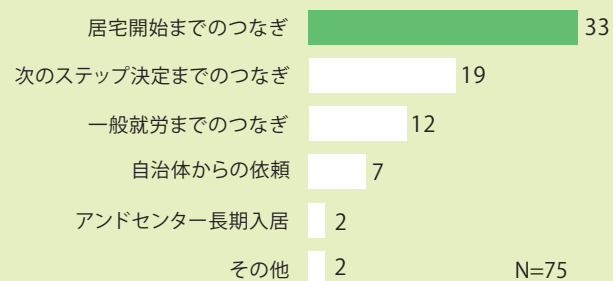
知ったきっかけ

宿泊を希望した人のうち、53.3%はインターネットでの検索がきっかけで来所に至っています。フリーWi-Fiで検索をして、やってきたという人も多く見受けられました。コンビニなどに設置したポスターを見ての来所も全体の12%を占め、さっそく設置の効果が出てきたと言えます。

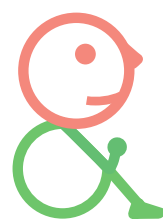


利用の経過

「家を借りたいけど、事情があってひとりでは借りられない」という人からの相談が多く、不動産屋を紹介し、安定した住居に入ってもらおうというケースが2018年度は最も多かった。また、新たな試みとして、自治体からの依頼での緊急宿泊の受け入れも実施しました。



2018年6月本格運営開始



公式キャラクター
アンドくん

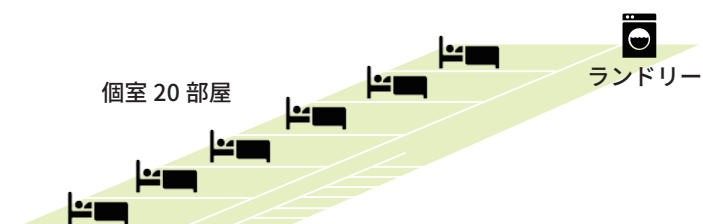
アンドセンター

Homedoor 事務所に併設されたアンドセンター。延べ床面積 320 平米、5 階建のビルです。住まいのない人向けに 20 人分の個室を用意しているほか、シャワー室やキッチンなども用意しています。

徹底解剖！

3-5F

ベッドやシャワー完備の個室。
ゆっくり自分だけの時間を過ごせます。

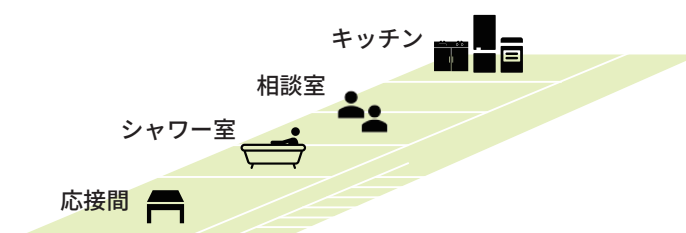


緊急宿泊用個室 5 室
2 週間まで無料で利用可能

長期入居用個室 15 室
6 ヶ月まで有料で利用可能

2F

「あったらいいな。」
そんな設備を用意しました。



料理をしたい人はこちら。
レンジやトースターもあります。



プライバシーが守られる相談室
で安心して話ができます。



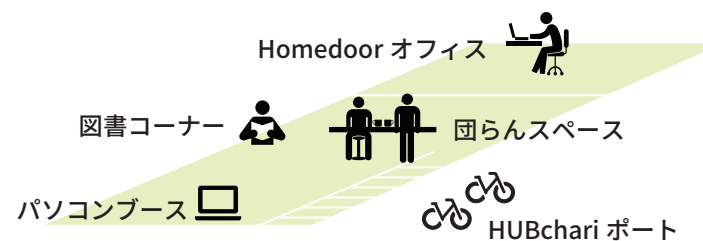
宿泊者以外も利用できるよう、
シャワーだけのお部屋も用意。



最大 20 人程度が入る応接間。
セミナーもここでを行います。

1F

思い思いに過ごせる団らんスペース。
いつも、わいわいがやがや。



月～土曜日、毎日開所しているので大好評。おしゃべりしたり、ご飯を食べたり、パソコンで調べ物をしたりできます。

📊 データと写真で見る 2018 年度

季節のイベント 四季の移ろいを楽しめるイベントを用意しています。

4月 お花見
7月 流しそうめん
8月 バーベキュー・花火
10月 ハロウィンパーティ
11月 紅葉狩り（寺社仏閣めぐり部）
11月 マス釣り（アウトドア部）
12月 4種類のカレーを食べ比べる大忘年会
1月 新春餅つき大会
2月 恵方巻きパーティ

カットモデルの参加者

2016年度より理容専門学校の授業の一環で、カットモデルを行っています。参加者には謝礼も支払われ、希望者が多いです。定期的に散髪の手伝いを提供し、衛生面の維持にも貢献しています。

のべ
99人

健康相談会の参加者

体調に不安を抱えながらも、保険証を持っておらず病院に行くことができない人がたくさんいます。月に一度の健康相談は医療のセーフティネットになっています。

のべ
44人

1日の平均来所者数

「居場所を求めて」「シャワーを浴びに」「相談をしに」いろんな目的で来所しに来る人たちがいます。アンドセンターは多くの人がやってくるため、毎日にぎやかです。

平均
15.2人

👤 現場のリアルボイス

あのラーメンの味は、忘れられない。



出会って4年になる
近藤さん(60代)

熱中症になりかけてフラフラだった時、近くで野宿をしていた人に紹介されて、はじめてHomedoorの事務所に行きました。そのときに食べさせてもらったカップラーメンの味は、3年以上経った今でも覚えています。

あと2年待てば年金が満額で入ってくるので、それまでは野宿でなんとかやっていこうかなと思っています。それができるのは食料や衣服をここで提供してもらっているからこそです。

洗濯やシャワーができる唯一の場所。



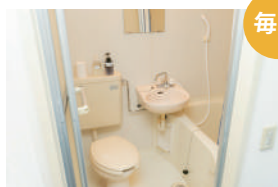
ほぼ毎日来所する
堀さん(30代)

事情があって実家を出て、野宿をして半年ほどになりました。食料や衣服をくれるところは他にもありますが、洗濯やシャワーが無料で行えるのはHomedoorだけなので本当に助かります。

最近仕事もさせてもらえるようになって、これから今後のことも考えていきたいなと思っています。

生活支援メニュー

無料で利用できるメニューを用意しています。



シャワールーム

毎日



ランドリー

毎日



散髪（カットモデル）

月2回



看護師による健康相談会

月1回



食料の提供

毎日



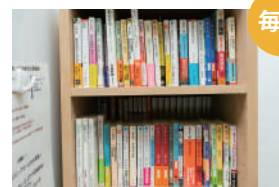
仮眠スペース

毎日



衣服や日用品の提供

毎日



本の貸し出し（ホムド文庫）

毎日



アンド食堂

月1回



パソコン教室

随時



毎年行っている流しそうめんの様子。夜回りで配布しているチラシを見て、やってくる人も多くいます。

Challenge

03

暮らしを支える

活動内容



居場所づくり



健康サポート



食堂の実施

いつでもシャワーを
浴びられる生活を

アンドセンターには無料で利用できるシャワールームを設置しています。大阪府の公衆浴場は1回440円。収入が少ない人たちにとっては、決して安いとは言えない金額です。「自分なりに綺麗にしているけど、臭いと思われる人はいないかな」と衛生面に気を使っている人は多いのです。

相談をするにはまだ抵抗があるという人も、シャワーを何度か使いに来て、後日相談に至るというケースも増えてきました。来所するきっかけづくりにも役立っていると言えます。

15秒でわかる2018年度

課題

シャワーを浴びたい、ゆっくりくつろぎたいというニーズが増えていた

壁

スペースの関係で、生活支援メニューを増やせなかった

チャレンジ

アンドセンターの開設により、シャワーや団らんスペースを増設できた

結果

来所するきっかけが生まれ、相談にもつながった

人生をカメラで切り取る

18年6月に株式会社電通デジタルと連携し、カメラを野宿状態の人に渡し撮影してもらい、特設サイトで写真を販売するプロジェクト（詳細20頁）を開始しました。「心が動いた瞬間にシャッターを切る」というルールだけを伝えて、20人近い方に写真を撮ってもらいました。住居がないと時間を潰すにも苦勞します。家電量販店などを毎日ぐるぐる見て回るといふ人もいます。「撮影をする」という目標ができたことによって、「久しぶりに夢中になった」「昔、写真を撮っていたときのことを思い出した」と新鮮な感想をもらうことができました。

📊 データで見る 2018 年度

就労機会の提供

Homedoor では HUBchari や駐輪管理等の仕事を用意しており、就労を希望する人に面談の上、働いてもらっています。

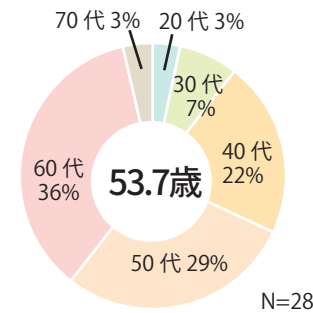
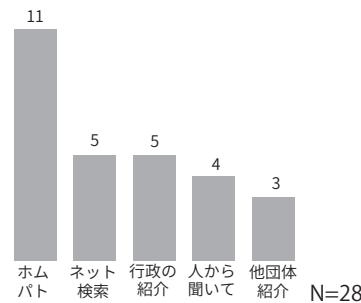
就労するきっかけ

長期間に渡り野宿をしている人は、身分証を紛失や失効していることが多く、一般就労は難しいです。Homedoor で提供する仕事は身分証や住所を不要としています。

就労した人の平均年齢

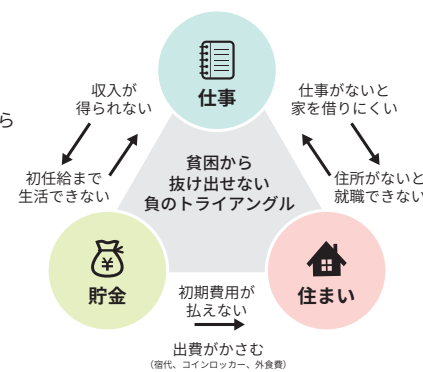
年齢が上がるにつれて仕事探しが難しく、サポート期間も長期化する傾向にあります。

28人



負のトライアングル

ホームレス状態に一度なると、自力で抜け出すことは非常に難しいです。なぜなら、「仕事」「住まい」「貯金」の3つをすべて失うと、自力ですべてを取り戻すのはとても難しい構造だからです。そのため、「仕事」と「住まい」を同時に提供し、貯金をしながら段階的に脱出を目指す場所が必要です。アンドセンターはこの負のサイクルを打破するために生まれました。



HUBchari事業で働くスタッフの様子。自転車のメンテナンスに、お客様対応にと大忙し！英語でのやり取りをする場面も。

Challenge

04

働くを支える

👤 現場のリアルボイス

落ち着いて、物事を考えられるように。



就職が決定した
原崎さん (20代)

ネットカフェにいた時、たまたま見つけて、「人生やり直したい」と思って来所しました。アンドセンターに住みながら、紹介してもらったHomedoorの仕事で働きつつ、就職活動をしています。他の支援団体にもつないでいただき、来月から希望していた職種で働けることになりました！

部屋が個室で、ゆっくり自分と向き合う時間をとれたことが大きかったかなと思います。

仕事をして体にも変化がうまれた。



これからアパート探し！
山岡さん (60代)

年齢が高齢になる中で家はなく、仕事も見つからず、年金だけでなんとか暮らす日々。そんな時、夜回りで声をかけられ入っていたチラシに「路上からでも働ける」と書いてあって「今の自分でもいけるかも」と思いました。

仕事をするようになって、動きづかった肩がまわるようになり、収入もできて二重に嬉しかったです。

「生きるための役割を担う就労」をこれからもサポートしたい。

「住まい」と「仕事」を同時にサポートするというのは、私自身、初めての取り組みでどうしたらよいのか、日々手探り状態でした。今までは、Homedoorで働きながらも路上やネットカフェで過ごす人が多かったため、「今日はどこで寝るか」と悩まずに済み、安定しながら働ける環境を提供できるようになったことは大きな成果でした。

相談者の多くは就労を希望しています。病気のため働くことが難しい状況でも「働きたい」と話します。

「就労」とは収入を得ることだけではなく、人や社会と繋がることができる手段であり、生きるための役割を担うことだと思います。性別や病気の有無に関係なく、誰でもできる仕事の必要性を感じた1年でした。



相談員・笠井
(精神保健福祉士)

ホームレス問題に関心を持ったのはなんと幼稚園の頃！その時見かけたホームレスの人が忘れられず、精神保健福祉士の資格を取得。その後、医療ソーシャルワーカーとして経験を積み、2016年より相談員として入職。

15秒でわかる2018年度

課題

家がない中で働くことは負担が大きく、選択肢が少ない

壁

身分証や携帯がないため家を借りられない

チャレンジ

アンドセンターで入居しながら働けるように

結果

次の仕事をスムーズに探してもらえたようになった

「路上にいても働きたい」に
 住居のない人にとって、「働く」はハードルが高いです。仕事をしたいと思っても、身分証や携帯電話がないため廃品回収や日雇いなど限られた仕事しかありません。そこで夜回り活動時に「路上からでも働ける仕事があります」という求人票をお弁当と一緒に配り、「働いて路上脱出したい」と願うホームレスの人へアプローチしています。仕事をするので社会との接点を構築しなおすことができます。再チャレンジを目指す人たちにとって誰でも働ける環境は必要不可欠であると感じています。

「仕事」と「住まい」で
 トータルサポートを開始
 18年9月より、15室の長期入居用個室の提供を開始し、8名が入居しました。これにより、就労しながらアンドセンターに長期滞在し、その間に貯金や家探しのサポートを行っていくステップ型の支援が可能となりました。
 仕事をしていても家がなければ宿泊費など出費はかさみ、貯金しにくいです。また、「明日の寝床を考えなくてもよい」ということは精神的に大きな安定をもたらします。身も心もリラックスした状態で働けることがどんな効果をもたらすのか、これから検証していきます。

活動内容



仕事の提供
 ・自主事業
 ・民間 / 行政委託



一般就労移行



金銭管理サポート

ポートが続々と誕生。ハブチャリのご利用で活動を応援！



電動自転車でラクラク移動！

特技を活かした仕事づくり

「ホームレスの人たちの特技を活かして仕事をつくったら、働いてもらいやすいんじゃない？」
そんな思いから、12年に始まったHUBchari(ハブチャリ)。新梅田シティ(スカイビル)やアメリカ村、新世界など大阪の主要な観光名所にポートを増やすことができました。貸出返却を担当するスタッフはいつの間にか外国人が来ても全く物怖

じせず、身振り手振りを交えながらコミュニケーションがとれるように。貸出や返却の対応以外にも、各拠点の台数調整やバッテリー交換、マップの補充等、様々な場面でスタッフたちが活躍しています。17年からは、株式会社ドコモ・バイクシェアをはじめとする多くの企業との連携により、140以上のポートが誕生、利便性も大幅に向上しました。

三方良しのシェアサイクル

ハブチャリの公式ウェブサイトで經由での会員登録分が、ハブチャリの収益となります。利用者も増えたことで、18年度は大幅な黒字化となり、アンドセンターの開設費用の補填ができました。

ご利用のお客様にとっては便利に楽しく移動してもらえ手段であるハブチャリが、いつの間にか、ホームレス問題の解決につながっているの

です。登録は無料です。ぜひ皆様もご利用ください！

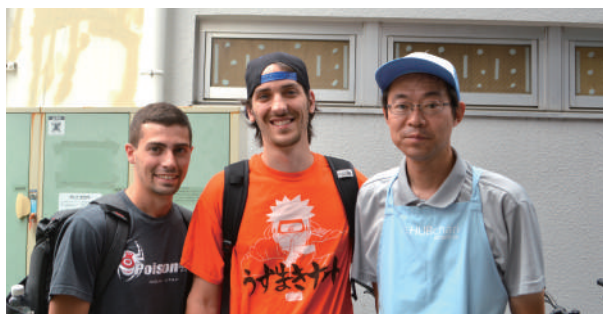
災害時にも役立つ乗り物に

18年6月には高槻市を震源とする大阪北部地震があり、自転車の無料開放を実施しました。災害時のライフラインとしてのシェアサイクルの重要性を感じました。有事の際により機能していくためにも、ポート数を拡大し、認知度向上を引き続き、目指していきます。

ハブチャリ
HUBchari



お花見シーズンにも大活躍！



約半数が海外からのお客様！

ご利用料金 (税抜)

	1回利用	1日利用	月額利用
基本料金	最初の30分 150円	1,389円/日 ※ご購入当日の23:59まで 何度でも乗り放題！	2,000円/月 ※月に何度利用しても 30分以内なら追加料金不要
延長料金	30分以降 100円/30分		30分以降 100円/30分
支払方法	クレジットカード ※一部の拠点では、現金での支払いも対応しています。		

ご利用方法

会員登録

▼

貸出

▼

返却

まずはウェブで会員登録！
ご登録にはクレジットカードが必要です。
www.hubchari.com

登録後、マイページから利用したい自転車を選択。4桁のパスワードを発行し、ポートにある自転車の端末に入力。

返却したいポートで自転車の鍵を手動でかけ、[ENTER]を押します。

連携深まり、累計6区に

企業とつくる新しい就労の形

初めての人も 働きやすい仕事場づくり



慣れ親しんだ自転車
2~3人組で
仲間と一緒に
取り組みやすい仕事をつくる

14年から開始した放置自転車対策業務。大阪市内の各区から委託を受け、駅前に止まっている放置自転車を整理したり、啓発用紙を貼り付けたりしています。

2~3人ひと組での業務のため、しばらく仕事をしていなかった人でも安心して働くことができます。仕事を通じて、自身と同一ような環境にいる人と会話をするきっかけも生まれます。

18年度は「コネクションズおおさか」とも連携し、社会的なブランクのある若者にも就労機会の提供を行いました。ホームレスの人だけでなく、就労に悩む人たちにも広く門扉を開けるきっかけになりました。
放置自転車を減らすだけでなく、地域にとって役立つ存在になればと考えています。

行政との連携「自転車対策啓発事業」



二人で協力しながら、業務をこなします。



撤去を減らすために貼紙をします。

企業との連携「商業施設の駐輪管理」「飲食店の看板持ち」



多くの人が足を止め、道を聞きます。



商業施設にはHUBchariも併設！



自転車を一台ずつ丁寧に扱います。

企業にもNPOにも メリットのある仕事に

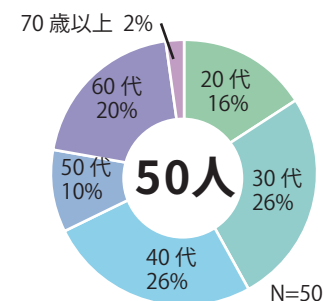
ハブチャリ事業での経験を踏まえ、自転車に関する仕事づくりに力を入れてきました。その結果、17年より大和リース株式会社さまより、商業施設プレスポの駐輪管理業務を受託しています。毎日6時間シフト制の仕事を用意できています。

18年度は新たに株式会社フォーシックスさまの運営する居酒屋「てつたろう」の看板持ちのお仕事を頂きました。お客様が迷われないよう、看板を持ちながらお店まで案内をしております。過去に廃品回収を経験しているスタッフは土地勘もあり、スムーズな案内ができています。
行政委託は単年度契約のため、雇用できる期間に限りがあります。民間委託の場合、安定性が高く長きに渡って雇用の場を提供できることが大きなメリットだと感じています。

📊 データで見る 2018 年度

居宅移行支援をした人

22 歳から 72 歳まで幅広い世代の人に居宅移行を支援しました。アパートに入る人には布団や家電の貸し出しも行っています。



5 社

のべ
86 人

居宅移行された人には
こんなものをレンタル&プレゼント！

ご寄付でいただいた寝具や電気ケトル、炊飯器、冷蔵庫、テーブル、お米やインスタント食品などをお引越しされる方にお渡ししています。

リサイクルショップを運営されている株式会社ベストバイ様にも協力いただき、買取をした金額を寄付に回す「モノギフト」という取り組みも 2016 年度から開始しています。



相談員・笠井



アンドセンターに入居して半年。警備会社に就職し、仕事に励む卒業生の様子。大阪府内の様々な現場に行っています。

Challenge

05

再と登に寄り添う

👤 現場のリアルボイス

仕事もボランティアも継続したい。



気配り上手な
佐藤さん (50 代)

2018年5月までHUBchariで働いていました。そこでチームワークや人とのつながりの大切さを学びました。

現在は、バスの誘導員として働けるようになり、あの時の経験がすごく役立っているなど感じています。「人を信じる」ということができるようになりました。Homedorに恩返しできるよう、今後もイベントなどを手伝いたいと思っています。

不動産を探している人の力になりたい。



株式会社グラナート
藤井さん

以前よりDVシェルター退所後の方などへ部屋の紹介をしていましたが、Homedorと出会い、さらに様々な事情で部屋を探されている方がいると知りました。

身分証のない人でも入居できる物件を用意することで、微力ながら役に立ち、本業を通じて社会貢献できればと思っています。入居された方から感謝の言葉をいただけることもあり、仕事のやりがいも再認識できました。

日当たりの良い家に住みたいなんて、昔は思わなかった。

Homedorで紹介してもらった清掃会社で働き始めて2年半が経ちました。今も週に6日、商業施設の清掃をやっています。年配の人ばかりの会社なので、かわいがってもらえて、差し入れをもらったり、仕事終わりにみんなで飲みに行ったりすることも多いんです。正直、やめようかなって思ったこともあったけど、周りの人たちによくしてもらっていることがここで頑張れる大きな理由のひとつかなと思います。

今のアパートはHomedorに探してもらって、ボランティアの人に引越を手伝ってもらって住み始めました。もう2年が経とうとしています。あの時は家があるだけでありがたかったの、「住めば都」って思っていたけど、そろそろもう少し日当たりの良い家に引っ越したいなとも思ってます。そんな風に思えるようになった自分にびっくりしています。



掃除の腕はピカイチ！
石井さん (50 代)

15秒でわかる2018年度

課題

ホームレス状態だと住居を得ることが難しい

壁

初期費用や保証人を自分で用意することができない

チャレンジ

困窮者に理解のある不動産会社との連携を開始

結果

理解ある不動産会社が増え相談者がスムーズに居宅移行へ

住居のない状態で、新たに住居を借りることはとてもハードルが高いです。身分証や携帯電話、保証人などさまざまな壁を乗り越えなくてはなりません。18年度は新たに多数の不動産会社と連携できたことで理解のある大家さんを紹介してくれたり、初期費用の一部を負担してくれたりと非常に助かっています。その結果、50人が新たに居宅生活を開始できました。今はまだ「稀少な事例」となっていますが、当たり前に誰もが住居を借りられる社会にしていこう、これからも奔走を続けていきます。

「散々お世話になったから」とカップラーメンをたんまり抱えてやってきて、近況の報告を一通りして、自分の家に帰っていく。そんな「卒業生たち」がたくさんいます。その一方で、再び相談にやってくる人もいます。どちらにしても、いつでも気軽に立ち寄れる居場所として機能をしていることは喜ばしいことです。誰かとの関係性を絶やさないこと、それがホームレス状態を生み出さないために一番大事なこともあるかもしれません。

多数の不動産会社との連携

いつでも立ち寄れる場所であること

活動内容



引越し・見守り



就労定着



卒業生サポーター

多くの個人・企業のみなさまに関わっていただくことも「伝える」というチャレンジのひとつです。

Homedoorの活動を支える企業さま・団体さま



ICCパートナーズ株式会社



株式会社アクロス

ADASTRIA

株式会社アダストリア



大阪ガス株式会社



積水ハウス株式会社



株式会社
セールスフォース・ドットコム



株式会社ソニー・
デジタルエンタ
テインメント・サービス



大丸心齋橋店



大和リース株式会社



株式会社ベストバイ



ChatWork株式会社



株式会社電通デジタル



株式会社
ドコモ・バイクシェア



西日本電信電話
株式会社



日本コンピュータ・
ダイナミクス
株式会社



不二熱学工業株式会社



ベアーズ



株式会社ペライチ



丸紅基金



株式会社ムトナ

株式会社アシストワン、大阪東急REIホテル、グーグル株式会社、株式会社グラナート、日本郵便株式会社(2018年度年賀寄附金配分事業)、株式会社フォーシックス、Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs、認定NPO法人ふーどばんく大阪、認定NPO法人フードバンク関西、独立行政法人福祉医療機構、NPO法人フリーヘルプ、NPO法人HEALTH SUPPORT HINATA、NPO法人二枚目の名刺、株式会社リブゲート、レイライン不動産株式会社、株式会社ロッキーホーム、ヤフー株式会社 (敬称略・五十音順)

自分でも関われるんだと知りました。



相談ボランティア
藤木さん(50代)

社内研修を通じHomedoorを知りました。ホームレス問題は「自己責任」と勝手に考え、ホームレスの人を「見えていたはず」なのに「見えないふり」をしていた自分がいました。

社会の仕組みや、負のサイクルで苦しむ多くの方がいる事を知り、何度でもやり直せる社会の実現に自身も貢献できる事を知り、ボランティアとして継続的に関わらせてもらっています。

抜け出せない理由を教えてもらった。



株式会社特殊高所技術
和田代表取締役
(サポーター)

私は最初、「ホームレスって自分次第で抜け出せるんじゃないか? 社会に対するただの甘えではないのか?」と思っていました。しかし、川口さんのお話を聞いて、それぞれに様々な理由があること、そして、そこから抜け出すことの難しさを知りました。

知れば知るほど、すばらしい取り組みであり、とても大変な取り組みだと感じています。私一人では何もできません。こうしてお手伝いさせていただける機会に感謝です。

ホームレスの人独自の視点を活用して。



株式会社電通
アートディレクター
大原さん

2016年に、ホームレスの人たちが撮影した写真を使ってHomedoorのポスターを作るという企画をさせていただきました。その時にポスターには使えなかったけど「良い写真!」というのが多くありました。

当時の心残りを経て、さらにパワーアップして完成したのが右のウェブ 사이트です。かわいい写真、クールな写真、ハードボイルドな写真、色々あります。ホームレスの人たちの視点を覗いてみてください。僕自身も多くの発見や興奮をいただきました。

写真の販売について

特設サイトはこちらよりアクセス可能です。独特の感性がキラリと光る写真が数百枚掲載されています。

「



Snapshot
taken by
Homeless.

」



<https://www.homedoor.org/snapshot/>



自主開催のイベントの様子

「これからのホームレス問題」を伝えていくために
「ホームレス」「野宿生活者」という考え方は時代にそぐわなくなってきた。住居を失ったけれど、路上で夜を明かさない人は大勢います。多様化するホームレス問題を様々な手法で社会に発信していくべきだと考えています。そのひとつがメディアにでることや賞を頂くことだと言います。
18年度はウーマン・オブ・ザ・イヤー受賞をはじめ、これまでホームレス問題と縁がなかった層にも広く情報を届けていくことができました。これからの積極的にメディアを活用していきたいと考えています。

講演

2018年度は大阪を中心に関東から九州まで幅広い地域でお話をする機会をいただきました。



講演回数
46回

ストリートカウント2018

2017年度から実施している深夜に野宿をしている人数をカウントする調査活動を、市民ボランティア20名と一緒に2018年度も実施しました。大阪市北区内をくまなく回ることができました。



野宿者数
145人

6つのチャレンジを理解しやすくするため
ウェブサイトのリニューアルも行いました



ちちんぷいぷい放送の様子



ウーマン・オブ・ザ・イヤー
授賞式の様子

2018年度の主なメディア出演

2018年6月 「産経新聞」
大阪北部地震、シェア自転車に感謝の声

2018年8月号 「Forbes」
NEW INNOVATOR 99
新しいイノベーション! 日本の担い手99選

2018年10月 「読売英字新聞」
Homedoor a beacon of hope for homeless in Osaka

2019年1月 日本テレビ「the SOCIAL」
10代でホームレス支援をはじめたフケ

2019年2月 毎日放送「VOICE」

2019年2月 毎日放送「ちちんぷいぷい」

2018年度の主な受賞

ウーマン・オブ・ザ・イヤー2019
「再出発サポート賞」

Forbes 誌
世界を変える30歳未満の日本人30人
30 UNDER 30 2018」に選出

ミレニアル世代の際立った
取り組みを表彰するアワード
BEYOND MILLENNIALS
「Game Changer 2019 グランプリ」

ICCサミットプレゼンテーション
「カタバルトグランプリ3位入賞」

Challenge

06

伝

え

え

活動内容



講演
ワークショップ



路上生活者
調査

Accounting report 会計報告

活動計算書 (8期:2018年4月1日～2019年3月31日)

(単位:円)

			7 期	8 期	前年度比	
経常収益	受取寄付金（サポーター会費含む）		21,509,405	22,523,427	4.71%	
	受取助成金		870,497	13,954,790	1503.08%	
	事業収益	事業収益	7,331,023	10,253,643	39.86%	
		受託事業収益	19,214,700	10,155,032	-47.14%	
		その他事業収益	473,539	0	-	
		事業収益 計		27,019,262	20,408,675	-24.46%
	その他収益	受取利息・雑収益	322	18,035	5500.93%	
経常収益 計		49,399,496	56,904,927	15.19%		
経常費用	事業費	1. 人件費		25,374,460	19,732,919	-22.23%
		2. その他経費	業務委託費	4,692,030	2,747,990	-41.43%
			旅費交通費	868,832	805,493	-7.29%
			消耗品費	1,655,259	2,105,317	27.18%
			水道光熱費	244,722	909,677	271.71%
			地代家賃	2,198,272	11,587,687	427.12%
			その他	4,395,565	4,236,298	-3.62%
			事業費 計		14,054,680	22,392,462
	管理費	1. 人件費		1,168,321	1,072,585	-8.19%
		2. その他経費	旅費交通費	54,187	44,131	-18.55%
			地代家賃	105,525	1,045,000	890.28%
			その他	836,414	1,438,190	71.94%
		管理費 計		996,126	2,527,321	153.71%
	経常費用 計		41,593,687	45,725,287	9.93%	
	経常外収益		0	9,967	-	
	経常外費用		227,310	860,000	278.33%	
法人税、住民税及び事業税		70,000	70,000	0.00%		
当期正味財産増減額		7,508,499	10,259,607	36.63%		
前期繰越正味財産額		49,976,505	57,485,004	15.02%		
次期繰越正味財産額		57,485,004	67,744,611	17.84%		

総会で承認を受けた財務諸表を一部金額をまとめて表示しています。

7 期は大口寄付が 3 件あったため、それを除くと8期の寄付金額は大きく増えました。アンドセンターを開始したことによるサポーター 1000 人キャンペーンでサポーターが 484 口増え、913 口になりました。

福祉医療機構、Panasonic NPO サポートファンド、年賀寄付金、大阪市ボランティア活動振興基金など多数の助成金をいただきました。

事業収益 HUBchari 事業が前年比 82 %の大幅な増加となりました。

受託事業収益 大和リース様からの受託事業 (P16 参照) が安定した収益と雇用に繋がっています。行政委託 (P15 参照) は、入札金額自体が下がっているため、減少傾向にあります。

行政委託での当事者への雇用枠が減少したことを受け、支払った給与額も減少しました。

アンドセンターが 2018 年 4 月にオープンのため、大幅に増加しました。特に夏場や冬の冷房・暖房の光熱費がかりました。一時的にですが、利用者に快適な住環境を提供できたと言えます。

これまで施設をつくるために繰越金を残すよう経営をしてきました。ついに、2018 年度にアンドセンターをつくることができました。2019 年度には、アンドセンターの設備関連に充てる予定です。

About us 団体概要

- 設 立** 2010年4月
(2011年10月NPO法人格取得、2017年1月認定NPO法人格取得)
- ビジョン** ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる
- スタッフ** 事務局スタッフ 5名 (2019年3月時点・内2名が役員を兼任)
当事者スタッフ 20名
ボランティア登録者 1078名
相談ボランティア 10名
- 役 員** 理事長 川口 加奈
理事 松本 浩美 (事務局長と兼任)
理事 竹原 啓二 (株式会社フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長)
理事 岩田 真吾 (三星テキスタイルグループ 代表取締役社長)
監事 杉浦 元 (エリオスキャピタル株式会社 代表取締役社長)



組織の経営戦略を考える役員



実務面を支えるスタッフ

これまでの歩み

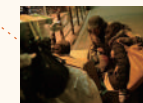
- 2010.04 任意団体設立
- 2010.08 大阪・釜ヶ崎 (西成) でモーニング喫茶を開始
- 2011.10 NPO法人格取得
- 2012.04 HUBchariオープン
- 2012.09 大阪市住吉区とHUBchari協働開始 (2013.03まで)
- 2013.04 大阪市北区とHUBchari協働開始 (2014.03まで)
- 2013.11 大阪市北区にてホームパト (夜回り) 開始
- 2014.04 自転車対策業務を活用した就労支援を開始
- 2014.11 深夜営業店舗にてバナー広告の掲載開始
- 2015.10 有料職業紹介資格取得
- 2016.09 ホームハウスの試験運営を開始
- 2017.02 アンド食堂開始
- 2017.03 認定NPOとして大阪市より認定
- 2017.10 大阪ストリートカウントを開催
- 2017.12 シェルターの試験運営を開始
- 2018.06 アンドセンター設立



大学生3人で団体名もないままに、ホームレス問題を解決したいという思いで設立しました。



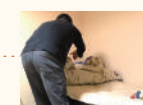
住吉区でのオープニングセレモニーの様子。



ホームパトの様子。大阪市北区を中心に月に一度以上開催しています。



3LDKのマンションを借り上げ、就労をしているものの、住居がない人へ試験提供を開始しました。



相談者が緊急で宿泊できるシェルターの運営を開始しました。ニーズが非常に多く、アンドセンター開設への大きな足がかりとなりました。

これまでの主な受賞歴

- 2012 年 日刊工業新聞社主催 キャンパスベンチャーグランプリ 「グランプリ」 「経済産業大臣賞」
- 2015 年 Google インパクトチャレンジ 「グランプリ」
- 2016 年 関西経済同友会・関西経済連合会主催 関西財界セミナー 「輝く女性賞」
- 2017 年 青年会議所主催 第31回人間力大賞 「内閣総理大臣奨励賞」 「参議院議員議長奨励賞」
WIRED Audi INNOVATION AWARD 2017「世界を変え、新たな未来をもたらす30の革新」
- 2018 年 日経WOMAN ウーマン・オブ・ザ・イヤー 「再出発サポート賞」
Forbes誌 「30歳未満の世界を変える30人 30 UNDER 30」選出



この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、特定非営利活動法人Homedorの収支を正しく示していることを認めます。



Homedor 顧問税理士
准認定ファンドレイザー
中山 麻衣子



Homedor 監事
杉浦 元

ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくるために、
寄付で私たちのチャレンジを応援してください。



3,000円 で
専門相談員によるカウンセリングをひとりに提供できます。



5,000円 で
アンドセンターでひとりが一晩ゆっくり休むことができます。



10,000円 で
夜回りを2回実施し、100名以上に食事を提供できます。



事務局長
松本 浩美

新たなチャレンジを
していくためにも、
ぜひ継続的な応援を
お願いいたします！

① サポーター会員になる(継続寄付)

1日35円から継続的にサポートできます。サポーター会員のみなさまには会員カードなどのサポーターセットをお送りします。

▶ クレジットカード決済で

ウェブサイト(www.homedoor.org/besupporters) から簡単にお手続きできます。

▶ 口座振替で

お電話かメールをいただければ、口座振替申込書をお送りします。

☎ 06-6147-7018 (平日11時～18時)

✉ info@homedoor.org



② 好きな額で寄付をする(単発寄付)

▶ クレジットカード決済で

ウェブサイト(www.homedoor.org/donatedetail)から簡単にお手続きできます。

▶ 銀行振込で

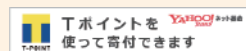
下記口座にお振込ください。

三井住友銀行 梅田支店(127) 普通 8928985 トクティエイリカツドウホウジン ホームドア

銀行振込の特性上、用途を確認できないため、お手数ですがフォーム(www.homedoor.org/donatedetail)よりご連絡ください。

▶ Tポイントで

「Yahoo!ネット募金」の仕組みで1ポイントから寄付できます。



Homdoorへの寄付には税制優遇があります。

認定NPO法人への寄付は税控除の対象となります。

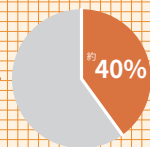
確定申告で、寄付額の約40%が所得税と住民税から控除されます。

例) 年間30,000円の寄付をした場合、12,320円が控除となります。

所得税: (30,000円-2,000円) × 40% = 11,200円

住民税: (30,000円-2,000円) × 4% = 1,120円

30,000円
の寄付



12,320円が
控除されます。

ボランティアでの応援也大歓迎です！

ホームページからボランティア登録すると毎月25日頃に
ボランティア情報が届きます。

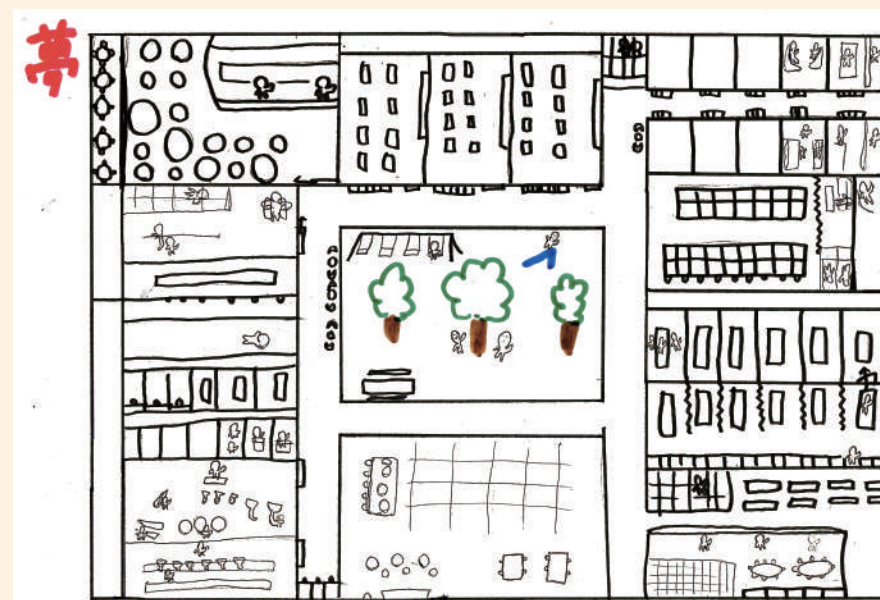
www.homedoor.org/volunteer



ボランティア
新出さん

一緒に活動しましょう！

Next Challenge 次なるチャレンジ



「あそこに行けばなんとかなる。
そんな場所があれば、路上死を防げるんじゃないか。」
そんな思いで、高校生の頃に
描いた「夢の施設の間取り図」。
10年と少しの時を経て、アン
ドセンターが生まれました。



理事長 川口 加奈



2018年度 アンドセンター誕生！

路上からでも働ける仕事、誰もがゆっくり
休める住まいの提供を目指し、2010年に
団体を設立。8年が経ち、ついに念願の宿
泊施設「アンドセンター」の運営を開始し
ました。

しかし、困窮状態にある相談者には相談料
や宿泊料などの負担が難しく、施設の運営
費用月100万円の捻出が課題に。

そこで、1口1,000円/月から参加できる
サポーターを1000人集める「アンドセン
ター設立1000人キャンペーン」を開始。
日本全国からの参加があり、目標は達成！
安定した運営ができるようになりました。

① 若年化する相談者への柔軟な対応

アンドセンターの開設により、未成年を含む若年層の相談者が急増しています。正規雇用での経験がない人も多く、若年層向けの生活・就労支援を行っていく必要性を感じています。若者支援団体など他機関との連携を強化していきます。

② アンドセンターの設備強化

アンドセンターの建物は1970年に建てられ、設備面の老朽化が目立ちます。冷暖房設備をはじめとする補修工事を行い、安心・安全・快適に宿泊できる環境を整えます。

③ スタッフの増員

相談者が増える中、2018年度は5名のスタッフで運営していました。求人活動を積極的に行い、組織体制の安定を図っていく予定です。皆様の周囲でホームレス問題に関心があり、転職や求職活動を行っている方がいらっしゃいましたら、まずはぜひご紹介ください！

2019年度 のチャレンジ

事務所に来る、みなさんに聞いてみました。

Q.

Homedoorに出会って、 何が変わりましたか？

A.

**アンドセンターに住みはじめ、
身分証や通帳をつくれたことで、
貯金がしやすくなりました。**

以前は通帳がなく、
お金を財布に入れるしかなかったので、
なかなか貯金できませんでした。



美馬さん
(50代)

人と話すことに、抵抗がなくなった。

代の頃から引きこもりで、相談していた機関から紹介され、
Homedoorで働くようになりました。
いろんな年代の人と関わる機会が増えて、
外に出たり人と話したりすることに
抵抗が少しずつなくなってきました。
日に焼けたねって言われることが増えました。



亀山さん
(20代)

**年ぶりに屋根の下で、
寝れるように。
炊き出し以外の
選択肢ができました。**

年金を受給できたことにより、
白内障の手術もできて、
視界がはっきりとできるようになりました。

**重たい荷物を持って歩く
生活をしなくてよくなった。
アンドセンターに人居して、寝たいときに寝れるし、
雨の日も快適です。お風呂に毎日入られるのも嬉しいです。**



芦田さん
(20代)

制度の知識と、安心感をもらった。

住む家ができたと、以前できなかった
通院ができるようになったことを踏まえると、
再スタートに向かって行っているなと思います。
Homedoorに出会えたことで、問題解決の
糸口が見えたなと感じています。

**同じような境遇の人と
出会えたことが心の支えに。**

アンドセンターに宿泊し「衣食住」の大切さを
学べた気がします。
この経験を生かして「食」の大切さを
広めていきたいと思って、今はアパートを借りながら
飲食店で調理の仕事をしています。



堀内さん
(30代)



福島さん
(40代)



嶋田さん
(50代)



八代さん
(60代)

**家があること、寝られる場所が
あることが本当に大事だってわかった。**

長く人と接していなかったので、お世話になってからしばらくは、会話のリハビリみたいな
感覚で遊びに来ていたけど、今でもHomedoorに顔を出すのは、同じような状況の人の
手助けがしたいと思っているからです。



北山さん
(40代)

**住居ができないと、
何もできないと、
知ることができた。**

今では安心して住める場所があって、
病院にもいけるようになりました。

**今が一番幸せです。
帰るところがあるのは、
本当にありがたいことです。
ずっと会えていなかった 代の親に
顔を見せにいきたいなと思っています。**



山本さん
(40代)



徳田さん
(60代)